

令和7年度入学者選抜試験問題（後期日程）

（地域学部地域学科人間形成コース）

「総合問題」出題意図

〔問Ⅰ〕

問題文は河野哲也著『〈心〉はからだの外にある「エコロジカルな私」の哲学』（日本放送出版協会，2006年）からの抜粋である。いわゆる「障害＝個性」論に関して当事者意識の多様性、それらに応じたケア側の認知、そしてこうした関係性を条件づける社会のありようなどから社会学的な批判が投げられているが、こうした論評は「障害学」の誕生や「障害＝社会発生」論としての根拠にも繋がりが、インクルーシブ社会実現の基礎的命題ともなった。そこで、エコロジカルな視点で人間や人間形成を捉えていくことは人間形成コースで学ぶ学生としては必須であることから、そうした視点で人々の営みを理解する能力や社会的想像力をみることにした。

問1 当事者視点に依拠した想像力と地域や社会を変革するための原動力に関して柔軟で独創的な発想を求めた。

問2 実際の日常生活について複眼的視点で内省する能力を求め、二面的価値を有する人・モノ・コトなどに関して弁証法的思考が展開できるかどうかをみる。

〔問Ⅱ〕

提示された3つの図は、笹川スポーツ財団『子ども・青少年のスポーツライフ・データ 2023』より、子どもの運動・スポーツ実施状況と家庭環境・保護者の意識との関連についての抜粋である。図1からは、男女とも就学後に低頻度群の割合が減少し、高頻度群が増加していること、男女別にみると、男子は小学校期を通じて各実施頻度群の割合は同程度であるが、女子は小学5・6年で高頻度群の割合が減少、低頻度群の割合が増加すること等が読み取れる。また、図2と図3からは、保護者の運動・スポーツに対する嗜好性や、家族と一緒に運動・スポーツ・運動遊びを実施することが、子どもの運動実施頻度に影響を与えている可能性が読み取ることができる。

問では、「子どもの運動・スポーツ活動と保護者の意識」について論じさせることで、提示された3つの図から、正確に情報を読み取る能力や、3つの図を関連づける思考力や考察力を評価することとした。さらに、受験生のこれまでの学習や経験から導かれる子どもの運動・スポーツ活動と保護者の意識の論述を通じて、論理的思考力や文章表現力を評価するものとした。